

会員サイト公開用 役員活動報告書

名 前	伊藤智典
担当業務	理事会諸会議に出席し、定款第 6 章にさだめる職務を行いました。また今期は組織運営協議会と総会が開催されましたので出席し、理事としての職務を行いました。 JANNET(障害分野 NGO 連絡会)では総会において監事から監査役(監事)へ変更が承認されましたので、今後は立場が変わりながら会の運営に貢献します。 World Physiotherapy AWP region(世界理学療法連盟アジア西太平洋地区)の執行委員会の委員として、AWP region の会議へ参加、Webinar の企画、運営をしました。 協会役員・士会長 OB・OG ネットワーク部会の担当として専務理事と協議を行い、総会後の取り組みにむけた調整をはじめました。

内 容			
日 付	他団体	会議名	場所
4 月 6 日		大規模助成金研究成果 報告会	オンライン
4 月 6 日		第 1 回 理事会・第 1 回理事懇談会	オンライン
4 月 7 日		拡大組織運営協議会	オンライン
4 月 19 日		田中まさし政経セミナー	憲政記念館
5 月 12 日		第 2 回 理事会・第 2 回理事懇談会	協会会館
5 月 12 日		ネットワーク検討部会合同会議	協会会館
5 月 31 日		ニューレジリエンスフォーラム	日本武道館
6 月 1 日		田中まさし勉強会	TKP ガーデンシティ プレミアム京橋
6 月 1 日		代議員研修会	同上
6 月 1 日		協会賞受賞者祝賀会	第一ホテル東京
6 月 2 日		第 53 回代議員総会	ベルサール汐留
6 月 4 日	○	AWP region 執行委員会 会議	オンライン
6 月 11 日		リハビリテーション議連	衆議院議員会館
6 月 20 日	○	AWP region Webinar	オンライン
6 月 21 日	○	JANNET(障害分野 NGO 連絡会)役員会・総会	戸山サンライズ
所感	4 月 6 日、大規模助成金研究成果報告会において、本会が委託した以下 2 つの研究結果が共有されました。 ・通所介護事業所に対する ICT を活用した遠隔での理学療法士の介入効果 ・疾患や障害の発生、または、加齢に伴う機能低下を予防し、健康寿命の延伸を図るための理学療法(士)の役割や理学療法の効果を立証する研究 いずれも本会が今後の事業立案においてどのように利活用すべきか、企画立案の段階から改めて熟考すべきと感じました。 同日、本年度最初の理事会、理事懇談会が開催されました。本会の定款 第 6 章に定め		

られている事項のうち、以下の(1),(2)の決議を行いました。

【定款第 6 章 理事会の職務より】

- (1)この法人の業務執行の決定 (2)理事の職務の執行の監督
(3)会長の選定及び解職 (4)副会長の選定及び解職
(5)専務理事の選定及び解職 (6)常務理事の選定及び解職

上記(1)に関して、業務執行理事・理事の事業執行等の体制案(2024年度)、2023年度(第42回)協会賞受賞者、協会名誉会員の推薦、都道府県理学療法士会からの感謝状推薦、会員歴50年の会員に対する感謝状推薦、第59回日本理学療法学会学術研修大会に関する感謝状推薦、役員賠償責任保険の契約、旅費規程の改正案、定款細則・会費徴収規程の改正案、賃金規程の改正案、総会議事運営規程の改正案、懲戒規程・懲戒規程細則の改正案、役員報酬等規程の改正案、次期会長候補者選挙及び理事候補者選挙の改正案、第53回定時総会の議題、新入会員の承認について審議し、決議しました。総会前の理事会ですので、規程関係で多くの議論が必要でした。一部、再検討になった議題もありましたが、遅滞なく決議を行うことができました。また各種報告事項を確認し、上記(2)に関して執行を監督しました。報告事項において代議員選挙が15都府県で実施されたこと、前回よりも増えたとのことでした。本会の組織運営に興味をもつ会員がより増えることについて期待しています。

翌日4月7日には拡大組織運営協議会に出席しました。組織運営協議会は定款細則に定められているもので、本会と都道府県理学療法士会の代表者(基本的には会長の先生方)が、本会組織運営の大きな方針について協議する重要な会議です。今回は拡大の名が冠についている通り、士会長以外の先生柄も多くご参加いただきましたこと、お礼を申し上げます。このたびの協議会では、都道府県士会と連携した組織強化の取り組み、ブロックの考え方について、それぞれ時間をさいて議論をつくすことができました。また、推進リーダー制度の効果的な運用に向けた検討状況、U30・40ネットワーク検討部会の活動、本会の政策活動、指定規則、新組織体制に関する方針、役員選挙制度に関する方針、懲戒委員の士会推薦制、個人情報共同利用に関する件、本会の中長期計画の状況、令和6年度トリプル改定の結果と振り返り、地域保健総合推進事業、公的保険外領域の職能活動状況、市区町村窓口担当者の設置等に関する今後の進め方、世界理学療法連盟学会や国際事業に関連したRoad for 2025、広報事業に関する周知・依頼事項、第59回日本理学療法学会学術研修大会 in 東京、60周年記念事業・第60回日本理学療法学会学術研修大会、日本理学療法士協会雑誌発刊について、それぞれ報告や質疑ならびに意見交換をしました。

ご指摘いただいた現実的かつ建設的なご意見をもとに、各地域で会員さんにとって魅力ある事業につながるよう、協会運営に反映していきたいと考えます。

4月19日、田中まさし政経セミナーに出席しました。テーマは「今後の医療DXに向けて準備・対応すべきこと」で、講師の吉田俊之先生より、公衆衛生をふくむ広い視点からご教示いただきました。Personal health recordの利活用に向けた社会基盤の構築のみならず、我々、理学療法士が将来にむけた研究、臨床で実際に利活用するための実装における課題や基本的な考え方について学ぶことができました。今後、政策提言につながる視点として留意したいと考えます。

5月12日は第2回理事会・第2回理事懇談会理事会が開催されました。理事会においては、本会の定款第6章に定められている事項のうち、以下の(1),(2)の決議を行いました。

【定款第 6 章 理事会の職務より】

- (1)この法人の業務執行の決定 (2)理事の職務の執行の監督
(3)会長の選定及び解職 (4)副会長の選定及び解職
(5)専務理事の選定及び解職 (6)常務理事の選定及び解職

上記(1)に関して、2023年度事業報告および決算報告、第53回定時総会次期議事運営

委員、「常勤役員要件審査委員会」委員の理事会推薦候補者、第 53 回定時総会議長団、役員報酬等規程の改正案、総会議事運営規程の改正案、第 53 回定時総会議題の追加、新入会員の承認について審議し、決議しました。また各種報告事項を確認し、上記(2)に関して執行を監督しました。

理事懇談会では市区町村担当窓口の設置について協議をしました。各都道府県の負担感が増えることなく、各地の実情にそった方向性となるように丁寧な意見交換をしていただきたいと思います。

近年、本会の社会的な活動が広がったことにより、イオンリテール株式会社や NEC など、日本を代表する他業種の大企業が賛助会員に入会している現実があります。公益法人としてコンプライアンスを遵守することはもちろん、理学療法士の活躍の場を広げられるように、企業と連携した事業を展開していきたいと考えます。

同日夕方、U30・U40 ネットワーク検討部会、代議員ネットワーク検討部会、そして私が担当させていただいている協会役員・士会長 OBOG ネットワーク検討部会が合同で会議を開催し、斉藤会長と担当執行理事の谷口専務理事と意見交換をしました。昨年度の検討結果について前向きなフィードバックや様々な視点からの示唆が得られましたので、総会以降の検討部会での議論に活かしたいと考えます。

5 月 31 日は、ニューレジリエンスフォーラムに参加しました。有事に備えた法整備、体制構築にむけて、様々な関係者らと関係構築をする重要性について学びました。理学療法士の認知と重要性について理解が広まるよう、関係者らとのコミュニケーションを図っていききたいと考えます。

6 月 1 日は本会の定時総会前日で、田中まさし勉強会、代議員研修会、協会賞受賞者祝賀会にそれぞれ出席しました。田中まさし勉強会では、「トリプル改定を踏まえたリハビリテーション政策について」というテーマで PT、OT、ST の 3 協会の振り返りと決意、意気込みを確認しました。また続いて開催された代議員研修会では、「認定スクールトレーナー制度の意義と理学療法士への期待」というテーマで、武藤芳照先生よりご講演いただきました。理学療法士の活躍に向けた大きなエールを感じることができました。会員の処遇改善、学校保健領域での理学療法士の活躍の拡大にむけて、より一層、具体的に尽力していきたいと考えます。研修会後、協会賞受賞者祝賀会に出席し、多くの代議員の先生方とご挨拶をさせていただきました。

10 年以上前より災害支援、生涯学習、学会、調査、総務関連や委員会事業などでお世話になった先生方に久しぶりにお会いすることができ、またお祝いを申し上げることができました。引き続きご指導いただきたいと思います。

6 月 2 日、第 53 回代議員総会が開催されました。冒頭、内閣総理大臣、文部科学大臣、公明党代表、リハビリテーションを考える議員連盟会長、日本医師会会長、日本看護協会会長、チーム医療推進協議会代表、世界理学療法連盟会長からお祝いのメッセージをいただきました。また 2017 年から関連事業でお世話になっている、厚生労働大臣の武見敬三先生からも祝電をいただきました。

年を重ねるごとに理学療法・理学療法士に対する認知や期待が高まっていること、そして本会の影響力が広がっていくなかにおいて、襟元をただし、本会事業を進めていくことが肝要だと感じました。

名誉会員の承認を求める件、役員報酬等規程改正案の承認を求める件、総会議事運営規程改正案の承認を求める件、懲戒規程改正案の承認を求める件、2023 年度事業の報告ならびに決算書類の承認を求める件、議事運営委員の承認を求める件、選挙管理委員の承認を求める件、常勤役員要件審査委員の承認を求める件について審議ののち、決議されました。代議員の先生方からいただいた多様な意見をもとに、持続可能性のある組織運営のため会員に必要とされる事業を企画、立案したいと考えます。

また 2023 年度監査の結果、新組織体制の方針、役員選挙制度の変更、2024 年度事業計画と予算、2023 年度本会会員の叙勲受章について報告しました。

叙勲を受章されたのは、私が担当させていただいている、協会役員・士会長 OBOG ネットワーク検討部会の部員、菅原巳代治先生です。10 年以上前、本会理事をされている

時から大変お世話になっていたことから、とても嬉しく感じました。部会活動でも引き続きご指導、ご助言いただきたいと思います。

6月4日には、私が担当している世界理学療法連盟 AWP region(アジア西太平洋地域)の執行委員会会議が開催されました。2024年のAWP学会の進捗などについて確認し、総会における議題案や、Webinarの企画について議論しました。これらの活動を通じて得られる各種情報は、省庁やリハビリテーションを考える議員連盟などへの提言において、日本の理学療法・リハビリテーション業界を変革に導く、インパクトある政策提言につながるこれがこのたび明らかとなりました。正確かつ適切な情報収集とともに、国際社会での活動によって、日本のプレゼンス向上を図ることは必要だと思う反面、決して日本だけのためなどの独善的な対応にならぬよう、地域全体での職能的な活動をボトムアップできるよう、パートナーシップの下で進めていきたいと考えます。

6月11日は、リハビリテーションを考える議員連盟の第9回総会に出席しました。会場には50名以上の国会議員と行政担当者、全国の理学療法士をはじめとするリハビリテーション専門職を含め総勢200名を超える出席、立ち見がでるほど多くの方で溢れました。PT、OT、ST代表からそれぞれ発表した後、以下の提案をしました。

- 1.人材確保のための物価上昇等を上回る継続的賃上げ及びキャリア形成支援への助成
- 2.高齢者・障害者の自立生活力を向上するための取組の強化
- 3.災害時の被災者に対するリハビリテーション支援の強化
- 4.ユニバーサルヘルス・カバレッジに係るアジア・アフリカ健康構想におけるリハビリテーション支援等の推進

これらが功を奏し、次年度の骨太の方針に「自立支援と社会復帰に資するリハビリテーション」の文言が記載されました。今後の政策提言活動と具体的な事業展開の中でこの文言をどう活かすか、関係者らと協議し、実行にむけて進めていきたいと考えます。

6月20日は、AWP regionのWebinar(オンラインイベント)が開催されました。学生や若手理学療法士らとつながる世界理学療法連盟の取り組み(名称 Future network)として、香港理学療法士会の会長が加盟組織側から登壇、若手理学療法士で Future network 副代表という立場での登壇、そしてナイジェリアの学生で同じく Future network の副代表という立場で登壇し、私はその司会を務めさせていただきました。Future network は、各国・地域の専門職団体とのつながりをつくり、またグローバルに横繋がりをしながら理学療法の業界を若い力で盛り上げていくものです。登壇者各位の熱量におされ、次世代のリーダー達と共に、力強いメッセージ性あふれるイベントとなりました。グローバルに関連する職能課題など、次の企画につながるようなご意見がございましたら、遠慮なくお申し付けください。また今回の Webinar には、日ごろからお世話になっている本会の関係部会の先生方にも多くご参加いただきました。心からお礼を申し上げます。

6月21日、担当している JANNET(障害分野 NGO 連絡会)の役員会・総会が開催されました。昨年度事業を振り返り、今年度事業の計画に向けた議論を行いました。2025年はデフリンピックの開催もあり、障害者スポーツは大いに盛り上がるのが予想されますし、数年ぶりに大きな規模で、グローバルフェスタが対面開催される予定です。障害をもつ人が取り残されないインクルーシブな社会を目指し、Community Based Inclusive Development/Community Based Rehabilitation について継続的に発信していきたいと考えます。またこれまで私は JANNET の幹事として事業執行を担当してきましたのですが今期から、JANNET 監査役に変更となりました。また日本障害者リハビリテーション協会の国際委員会委員にも就任しました。

障害と国際の切り口において、障害をもつ当事者の方々や、関連団体の方々との協働事業にかかわりながら、本会の信頼の向上や関係構築、そして理学療法士の活躍の場の拡大に貢献していきたいと考えます。

	本会の運営についてご意見やご指摘等がございましたら、ぜひお申し付けください。 メールのみならず、オンライン、お電話または対面にてお聞かせいただきたく思います。 引き続きご指導くださいますよう、何卒お願い申し上げます。
報告日	2024 年 7 月 11 日

※「他団体」に○がついている項目は、本会役員として他団体に関与しているものです。